

発災直後	発災 2 週間後	発災 1 か月後
<p>ライフラインの途絶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上水道：県内では 6～8 割途絶 ・下水道：県内では 9 割が処理困難 ・電力：県内では 9 割が停電 ・通信：固定電話は県内で 9 割が不通、携帯電話も輻輳等により利用困難、インターネット回線もサーバーが被災してしまい利用できないエリアが多数発生 ・ガス（都市ガス）：県内では 2～6 割で供給が停止 <p>交通施設被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路：沿岸部の津波で浸水した道路は通行困難、山間部の震度 6 強以上の区間は亀裂や陥没で通行不可、高速道路も震度 6 強以上のエリアでは通行止め ・鉄道：新幹線は電柱、架線、高架橋、橋梁等に被害が生じ全線不通、在来線も県内の広い範囲で全線が不通 <p>屋外避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅に残った人、避難所等へ避難した人ともに、余震が怖い等の理由で屋外に避難する人が発生する。 ・避難所には自動車による避難者も多く、学校等のグラウンドは自動車で満杯となる。 	<p>途絶が継続するライフライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上水道：県内では 5～6 割途絶 ・下水道：県内では 2 割が処理困難 ・電力：津波で大きな被災を受けた地域を除き 9 割が解消されるが、計画停電等により需要抑制が実施される ・通信：県内では 9 割が解消されるが、需要抑制の影響は受ける ・ガス（都市ガス）：県内でも震度 7 等の被害の大きな地区を除き、大部分で供給 <p>交通施設被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路：津波被害を受けて流失した橋梁等が仮橋により緊急自動車、緊急通行車両のみ通行可能、高速道路も、交通規制により緊急自動車、緊急通行車両のみ通行可能 ・鉄道：新幹線、在来線とも応急復旧作業中のため不通が続いている、道路の復旧に伴い、バスによる代替輸送が開始されている ・津波被害を受けたエリアでは、自家用車が流出していることに加え、公共交通機関が被害を受けているため、通勤、通学、通院、買い物などの移動手段が失われている。 <p>道路途絶による孤立集落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路等外部との物理的アクセスの断絶等によって、初動期の救助はもちろんのこと、支援活動に遅れが発生する。 ・孤立地区や中山間集落における物資の不足が深刻化する。他地域からの支援物資の配送困難が解消されない状況が続く <p>避難所から在宅避難への選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度は避難所に避難したが、避難所の環境に耐えきれず、半壊の自宅や、場合によっては全壊の自宅への在宅避難を選択する被災者が出てくる <p>地域を離れての避難、疎開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親類や知人等を頼った帰省・疎開行動が始まる 	<p>まだ残るライフラインの途絶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上水道：県内では 1～2 割途絶地域が残る ・ガス（都市ガス）：県内では 2 割の供給が停止状態 <p>交通施設被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路：高速道路は一般車両も含めて通行可能、だが地盤変位による大変形や津波による流失が生じた橋梁の一部は通行不能箇所が一部残る ・鉄道：新幹線は震度 6 弱以上の区間については、設備点検の結果に応じて補修を実施、1 か月以内に全線で運転を開始している、在来線は、津波被害を受けていないエリアで折り返し運転が開始、他は 5 割が運行再開 ・被災者の移動手段は決して十分ではなく、移動困難世帯、移動困難地区が多数発生している。 <p>避難所への遠慮とトラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅を失ってしまった避難所の避難者に遠慮して、避難所での物資配給を受け取れない在宅避難者がいる一方で、在宅避難者のために避難所で多めに支援物資を受け取ろうとして避難所でトラブルが発生し始めている。 <p>健康不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所や避難所外への避難者だけではなく、在宅生活者においても、生活不活発病となる人が増加する。 <p>災害ゴミの処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅前や近所の集積所が災害ゴミが一杯になってしまうが、用地不足等により、災害廃棄物等の中間処理施設、最終処分場の確保が困難となっているため処理ができなくなる。 <p>広域避難者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通機関の部分復旧等に伴い、遠方の親族・知人等を頼った帰省・疎開行動が本格的に始まる。特に、津波浸水地域を中心に避難所外への避難者比率が高まっていく。